

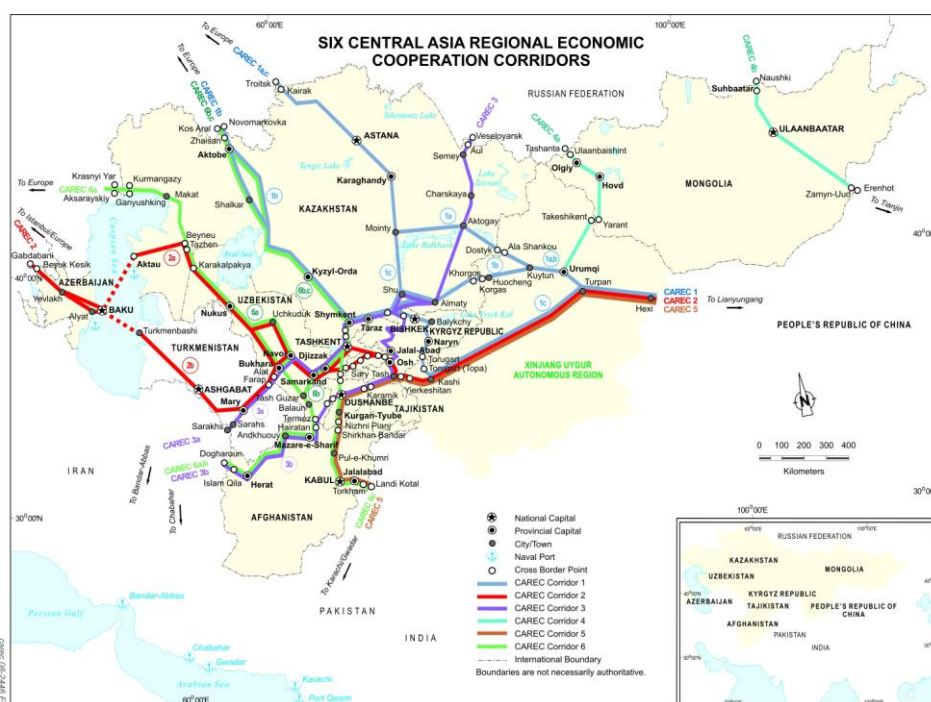
中央アジア地域経済協力の閣僚会議が開幕

【ウランバートル、2009年10月14日】[中央アジア地域経済協力（CAREC）](#)の第8回閣僚会議が本14日から16日の日程で、モンゴルの首都ウランバートルで開幕した。CARECは地域協力による開発を通じて経済成長を促進し、貧困を削減することを目的として1997年に発足したイニシアチブで、2000年からアジア開発銀行（ADB）が事務局をつとめている。

加盟国はアフガニスタン、アゼルバイジャン、中国、カザフスタン、キルギス、モンゴル、タジキスタン、ウズベキスタンの8カ国で、ドナー側はADB、世界銀行、国際通貨基金（IMF）、欧州復興開発銀行（EBRD）、イスラム開発銀行（IDB）、国連開発計画（UNDP）の計6機関が参加している。

今回の協議では、交通・エネルギー関連インフラの拡充や、国境・貿易手続きの簡素化、域内協力の強化などが話し合われ、最終日には「エネルギー行動計画」および「プログラム成果」の枠組みを定めた文書が閣僚によりそれぞれ採択される予定。このうち前者は、エネルギー開発面での協力、とりわけ中央アジアにおける電力需要や電力輸出を視野に入れた投資に焦点を当てている。後者は、CARECの投資案件や政策プログラムの進捗状況をモニタリングするプロセスに取り入れられる。また、これら2文書とは別に、優先度の高い案件である6つの回廊の建設（下記図）について、遅延要因やコストの分析結果も報告される予定（回廊成果測定モニタリング・プログラム）。

ADB中央・西アジア局の[ファン・ミランダ（Juan Miranda）](#)局長はCARECの実績について、「エネルギー安全保障、効率化、貿易などにおいて状況は大幅に改善しつつある。発足当時内向きだった加盟国も、接続性の向上や雇用創出の面でより緊密に連携をとるようになった」とした上で、地域協力の成功例として、[ウズベキスタンからアフガニスタンへの送電プロジェクト（動画）](#)をあげ、「カブールではわずか数ヶ月前まで1日2時間しか電力が供給されていなかったが、CARECのおかげで24時間化が実現した」と語っている。



お問い合わせ先

駐日代表事務所
広報官：望月 章子
T: +81 3 3504-3441/3160
E-mail: amochizuki@adb.org

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにてもご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>